



亡くなった人々が声を上げる

Dieter Scharnhorst
ディーター・シャルンホルスト

Dieter Scharnhorst

亡くなった人々が声を上げる

Dieses ebook wurde erstellt bei

neobooks.com

Inhaltsverzeichnis

Titel

亡くなった人々が声を上げる

序文

1. ケーススタディ

2. ケーススタディ

3. ケーススタディ

4. ケーススタディ

5. ケーススタディ

6. ケーススタディ

7. ケーススタディ

8. ケーススタディ

9. ケーススタディ

10. ケーススタディ

11. ケーススタディ

12. ケーススタディ

13. ケーススタディ

14. ケーススタディ

15. ケーススタディ

16. ケーススタディ

17. ケーススタディ

18. ケーススタディ

19. ケーススタディ

20. ケーススタディ

21. ケーススタディ

22. ケーススタディ

23. ケーススタディ

24. ケーススタディ

25. ケーススタディ

26. ケーススタディ

27. ケーススタディ

28. ケーススタディ

29. ケーススタディ

30. ケーススタディ

[31. ケーススタディ](#)

[32. ケーススタディ](#)

[33. ケーススタディ](#)

[34. ケーススタディ](#)

[エピソード](#)

[Impressum neobooks](#)

亡くなった人々が声を上げる

この電子書籍は様々な言語でご利用いただけます。

これは、死後の世界をテーマにした私の2冊目の電子書籍です。今回は、犬などの動物ではなく、死後の世界から私たちに連絡を取り、導きを与えてくれた亡くなった人々に焦点を当てています。

序文

誰もが一度は「なぜ生きているのか?」「人生の意味は何なのか?」「なぜアメリカやアフリカ、あるいはインドではなく、ドイツで生まれたのか?」「なぜある人は裕福で、ある人は貧しく、病気で、あるいは健康なのか?」と自問したことがあるでしょう。

誰に聞いても構いませんが、牧師も科学も決定的な答えを出すことができていません。真実に近づくためには、これらの疑問を真剣に考え、死後の世界と再生の可能性を無視してはなりません。なぜなら、これらすべてが前述の疑問に答えを与えているからです。ある人が贅沢に暮らしている一方で、ある人が貧困にあえいでいるのは不公平です。神の御子イエス・キリストは昇天の直前、弟子たちに真理の霊を送ると約束しました。そして、それは実際に起こりました。

すべては、私たちキリスト教徒が今日ペンテコステとして祝うあの日に始まりました。弟子たちは、教育を受けていなかったにもかかわらず、突然様々な言語を話せるようになったのです。彼らは突然、神とキリスト、そして来世について語り始めたのです。

当時でさえ、人々はこのようにしてあらゆることを直接学びました。後に弟子たちは、いわゆる霊媒師と呼ばれる人々を訓練し、彼らを通して神の天使が語りかけました。

それ以来、神の天使と死者が導きを求めて交信する霊媒師がいました。また、霊媒師の中には、悪魔や悪霊が交信する、いわゆる

「黒羊」と呼ばれる者もいました。あなたはその違いを理解する必要があります。

これらすべてに関する知識はあまりにも広範で、まるで大学の講義のようです。

しかし、真理に到達したいという真摯な願いと内なる衝動を持つ者は、必ず真理を見出すでしょう。なぜなら、キリストは既にこう言われているからです。

「求めよ、そうすれば見出すであろう。門をたたけ、そうすれば開かれるであろう。」

突然、あなたを正しい方向に導いてくれる人に出会ったり、本を手にしたりすることがあるかもしれません。本書では、長年の研究と研究に基づき、死後の世界がどのようなものであり、神の正義がどのように勝利するかを解説します。

これを読んで、地球上で不当な扱いを受けたと信じる人は誰でも喜ぶことができます。なぜなら、彼らは霊的世界で正義を受けるからです。

1. ケーススタディ

ほとんどの人はこう言います。

「私は唯一の神を信じています。他のことは死後に考えます」と。そして、そのことについて全く考えず、キリストのような人生を歩んでいません。さらに、霊媒師から伝えられた以下の事例からもわかるように、彼らはこの世を突然去る覚悟ができていません。

神の霊：このケーススタディでは、人間として神を信じていたものの、真に敬虔な人生を送らなかった魂についてお話しします。マーティンという名のこの男性は、4人の友人と共に交通事故に遭い、この世を去りました。

5人が交通事故で致命傷を負った後、目の前に立ちはだかる奇妙な人物が現れ、自分たちは死んだと告げました。彼らは正気で、生きている体を持っていたので、その見知らぬ人の言葉を信じたくありませんでした。しかし、その奇妙な存在は言いました。

「ほら、あなたたちの肉体は車の中に閉じ込められているのよ。」

それから彼らは考え始め、一人が尋ねました。

「本当にそうなの？ 私たちは本当に死んでいるの？ 信じられないわ。私たちは生きているのに！」 皆そう言いました。しかし、自分の死体を見たとき、彼らはその見知らぬ人の言葉をより深く考え、そしてその存在に尋ねました。

「私たちは今、死者の国に来たの？」

この者は答えた。

「あなた方は死者の国ではなく、神の国にいるのです。」

「しかし、あなた方の言う通り、私たちは死んでいるのです」と、彼らのうちの一人が答えた。「だから、私たちは死者の国にいるのです。」すると、再び奇妙な存在は言った。

「あなた方は生者の国にいるのです。」彼らはまだこの言葉の意味を理解していなかったが、すでに別のことに注意を向けていた。今、彼らは事故現場に人々が近づいてくるのを目にし、彼らから皆が死んだという話を聞きました。

今、5人の死者は、周囲の人々にとって自分たちが本当に死んでいるのだと、ゆっくりと理解し始めました。

「私たちは本当に別の世界にいるのだろうか？」彼らは疑問に思いました。

「私たちは人を見ることができませんが、彼らには私たちはもう存在していないようです。さて、私たちはどうすればいいのでしょうか？私たちは今、生者の国にいますと言われていますが、そこでは私たちは見知らぬ者なのです。」

五人の死者は、この奇妙な存在に目を向け、今や完全に困窮している自分たちをどうしたらいいのか、誰が面倒を見てくれるのかと尋ねました。その見知らぬ者はこう答えました。

「しばらくお待ちください。誰かが面倒を見てくれるでしょう。」

間もなく、五人の壮麗な霊的存在が彼らに近づき、それぞれが死者を一人ずつ引き取りました。

その霊的存在の一人は、冒頭で触れたマーティンにも話しかけました。マーティンはこれから特に彼についてお話ししたいと思っています。

「今からご両親にお会いしましょう」と、その美しい存在は言いました。「ご両親も霊界にいらっしゃいます。私たちはすぐに、あなたが思いがけず霊界に来られたことをお伝えしました。その後、お姉様もこちらに来て、お迎えに来られるでしょう。」

すると、蘇りし男はこう答えました。「私には姉妹がいた記憶はありません。姉妹はいませんでした。」しかし、彼を世話していた天使は彼に反論しました。

「ええ、あなたには姉妹がいましたが、生後一ヶ月で亡くなりました。」もしかしたら、今頃はお母様がこの美しい子のことを話していたことを思い出したかもしれませんね。」

天使は確かに覚えていました。天使は続けました。「お姉様があなたを特別に世話してくれるでしょう。そして、ご両親がそれがお姉様だと確認してくれるでしょう。」

彼らは5人が亡くなった場所に留まりました。少なくとも、戻ってきた天使にはそう思えました。しかし、ある感覚が、もうそれほど近くにはいないことを彼に告げました。距離は測れませんでした。それはとても奇妙に思えました。すると両親が彼に近づき、挨拶をし、彼が思いがけず早く霊界に来たことに驚きを表明しました。その後、両親は、神の世界はきっと彼の人生に満足しないだろうと懸念を表明しました。両親は彼を敬虔に育てましたが、彼は敬虔な人間として生きていなかったのです。両親がまだ実の息子と話している間に、妹が加わりました。彼女は天使のように美しく、素晴らしい姿をしていました。両親はかつての息子の姿を見て大喜びしました。妹は兄と握手し、こう言いました。

「私はあなたの妹です。」若くして亡くなった方です。私は天の天使たちの間で育ち、神聖な教育を受けました。」

この天使の両親は、この言葉を聞いて喜びました。幼い娘を失った時の悲しみは計り知れないものでした。だからこそ、この天使が彼らと息子の仲介者となったことで、彼らの喜びは一層大きくなったのです。他の知人たちも彼に挨拶に訪れ、新参者は彼らが同じように言うのを耳にしました。

「そうです、あなたは今、永遠の世界にいます。そして、地上での死後も人生は続きます。私たちは皆、生きていますが、同じ場所ではありません。私たちの立場はそれぞれ異なります。この世界は広大です。誰もがそこに自分の居場所を見つけます。ある人は特別に選ばれた壮大な住まいに、ある人はごく質素な住まいに、それは生きた人生次第です。」

故郷に戻ったこの魂は、死後も人生が本当に続くことにただただ驚嘆するばかりでした。人間として、そのようなことについて深く考えたことはなかったからです。しかし今、マーティンは不安になりました。妻と二人の子供たちのことを考えなければならなくなってきたからです。妻はこれからどうするのでしょうか。子供たちと二人きりになってしまったら、一体どうするのでしょうか。彼は不安に苛まれました。しかし、両親はすぐにできる限りのことをすると約束しました。天使のような存在となった彼の妹はこう言いました。

「できる限りのことをします。」

そして妹は、下の子は病弱で、地上での世話だけでなく霊的な世話も必要だと言い、将来は特別な世話をすると言いました。なぜなら、彼女には子が健康で強くなるよう霊的な力を与える力があるからです。帰ってきた弟は、この慰めの言葉の意味をなかなか理解できませんでした。しかし、両親が再び別れを告げなければならぬ時、妹は兄に教え続け、こう言いました。

「私があなたの仲介者となり、これからあなたと共に天の高位の霊たちのもとへ行きます。彼らは帰ってきた者全員を裁くはずで
す。私たちはそのような天使たちの裁きのもとへ行き、私はあなたのために特に祈ります。」

この言葉を聞いて、弟は不安になりました。神の天使が自分を裁くなどとは、考えたこともなかったからです。妹は兄の人生について、彼が犯した不正、生ぬるい信仰、そして神の世界に不快なこと、そして彼が自らに負わせてきた多くのことなどを語りました。兄は妹が自分のことを細部に至るまですべて知っていることに気づき、驚いてこう尋ねました。

「どうしてそんなにたくさんを知っているのですか？」

妹は答えました。

「私はいつも家族を訪ね、関心を示してきました。時にはあちこちと訪ねて、彼らを励まし、祝福を与え、時には災難を除けようともしました。」妹は、それがいつも可能だったわけではないと嘆きましたが、両親と兄、そして兄の家族全員には常に関心を示してきました。そしてこう付け加えました。

「今、天の御霊にあなたのために祈ります。」

妹は兄の手を取り、長い旅に出発しました。二人は広大な野原を歩きましたが、兄には道が果てしなく続くように思えました。二人で歩いているのは荒涼とした風景だったからです。妹は兄を慰めました。

「物事は変わります。きっと喜ぶでしょう。でも、私たちが今
一步一步歩んでいるのは、あなたの人生における失敗、実りのない
歩みなのです。」あなたには信仰があったでしょうが、善行に導い
たり、より良い人生が必要だと悟らせたりするほどの強い信仰はな
かったでしょう。あなたの信仰がもっと強ければよかったのに。
それに、あなたはキリストを心から信じていなかったのです。

「あなたはキリスト教の祝日は祝ったでしょうが、キリストにつ
いて尋ねたことはなかったでしょう。だから今、この世の信仰に関
するあらゆる事柄について教えを受けなければならないので
す。」

こうして二人は長く荒れ果てた道を共に歩き、荒涼とした野原
にぽつんと建つ天幕に着きました。そこで妹は兄に言いました。

「私たちは共にここへ入ります。天の高位の霊たちがあなたを
裁くためにあなたのもとへ降りてきたのです。私たちは彼らが住
む高みへは一緒に上ることはできませんが、彼らは今ここに天幕を
張っています。あなたが将来生きなければならないこの世界で、あ
なたに会うために、はるばるやって来たのです。」兄は妹の言葉を
恐る恐る聞きました。彼は中に入るのをためらい、この裁きを延期
するよう妹に懇願しました。彼は、罪の重荷を背負った高位の天の
審判者たちの前に立たなくて済むよう、まずはこの新しい世界で償
いをする方法があるはずだと言った。そして、そのようにして自
分の状態を少しでも良くしてあげられるよう、妹と一緒に祈ってく
れるよう頼んだ。しかし、妹は彼にこう告げざるを得なかった。

「もう、そんなことをするには遅すぎます。あなたは生きてい
るうちに、このことに気づくべきでした。ここで待つことはでき
ません。裁きの天使たちはすでにあなたを受け入れる準備ができて

います。そして私は律法と教えに従わなければなりません。ですから、今、あなたを裁きの天使たちの前に連れて行かなければなりません。でも、恐れることはありません。私はあなたと共にいます。」

彼女は彼を慰めるようにそう言った。彼は恐れる必要はなく、きっとあなたが思っているほどひどいことではないだろうと付け加えた。彼の恐怖はあまりにも大きく、もう少し待ってほしい、まず祈りたい、何を祈ればいいのか教えてほしいと、何度も姉妹に頼んだほどだった。しかし、彼女はそれ以上彼の言うことを聞かず、こう言った。

「愛する兄弟よ、もう恐れることはありません。ほら、私は天の天使になったのです。これからはあなたの執り成しとして、あなたのために執り成しをします。」そう言うと、彼女は弟の手を取り、半分家のように見える、設営されたテントの中のごく簡素な部屋に入った。そこには皆が座れるだけの椅子がいくつか置かれていた。そこには三人の神の天使が座っていた。まるで新しく来た者たちにさえ気づいていないかのように、彼らは互いに話し合っていた。しかしその時、天使である姉が三人の高位の兄弟の前に立ち、こう言った。

「私はここにいます。かつての実の弟を連れてきました。」

彼女は自己紹介をして言った。

「私は彼の仲介者です。」

姉が彼の後ろに立ち、守るように彼の肩に手を置いたので、弟は幾分安心した。神の天使が彼らに尋ねた。

「座りませんか？」

しかし、仲介する天使は答えた。

「もう少し待ってから座りましょう。」

この天使は、兄が震えているのを感じ取り、三人の裁きの天使の前に立ち上がれば、兄をよりよく守れると考えた。すると、天使の一人が言った。

「あなたが私たちの前に立ちたいなら、私たちも立ち上がりましょう。」すると、天使の一人が壇上に上がり、戻ってきた男に尋ねた。

「あなたは私たちを永遠に何をもたらすのですか？」

男はこの質問に驚き、答えることができなかった。何も言えず、妹に助けを求めた。しかし、妹はすぐに答えた。「ええ、兄は特に何ももたらしていませんが、善意の持ち主です。このことを通して、彼は地上で怠ったすべてのことを補い、正すでしょう。私は彼のために立ち上がり、それが成就するように彼を導きます。」

これに対し、裁きの天使はこう答えました。

「愛する姉妹よ、あなたのしようとしていることは称賛に値します。しかし、地上の世界から何か貴重なものを持ってくるのは、

私たちがいつも喜んでいることです。地上の世界もまた霊的な豊かさを生み出し、私たちはそれを見たいと思うからです。愛する人に長い間会えなかった後には、喜んでくれる贈り物を持ってくるのは、結局のところ、慣習なのです。これは人間の慣習であり、霊界にいる私たちも、長い間会えなかった後には、何か貴重なものを持ってくるのは慣習なのです。」

戻ってきた男はためらいがちに尋ねました。

「私があなたに持って来るべきものは何だったのですか？」

天使はこう答えました。

「善行です！ 天の国を得るために、人生で行わなければならない善行について、あなたは聞いたことがないのですか？ あなたは何も知らないのですか？」

すると、高位の姉妹は即座にこう答えました。

「ええ、彼はよくご存じです。しかし、彼はまだ自分が怠った分を取り戻す時間があると思っていました。突然の死を予期していませんでした。人は成熟して初めて、天国のために何をすべきかを理解するのです。これは私の兄にも当てはまりました。ですから、愛する兄弟姉妹の皆さん、どうか彼に寛大な心で接してください。彼は思いがけず早く、何の前触れもなくこの世を去ってしまったのですから。」この言葉を聞いて、三人の天使は慈悲深い微笑みを浮かべ、互いに頷きました。この姉妹が地上の兄のためにまだ多くの

善意の言葉をかけることができると分かっていた彼らは、声を揃えてこう言いました。

「あなたは兄のことを優しく、親切に話していますね。でも、地上で怠った分は、できる限り神の領域で埋め合わせなければならぬのです。」 「どうしてそんなことがお考えですか？善行を知らないような兄を、どうして私たちの仲間に迎え入れることができるでしょうか？」

しかし、高位の姉妹はすぐに彼らの言葉を遮った。

「私は彼に善行とは何かを教え、善行を通して彼を導きます。彼は必ず善行を行うでしょう。人間としての人生で怠ったことを、ここで善意によって埋め合わせるでしょう。」

こうして何度も議論が交わされ、兄は徐々に落ち着きを取り戻した。もはや恐怖は消え、震えも止まった。兄は妹の影響力を感じ取り、また、三人の厳格な天使たちが優しく微笑み合う様子も見ていた。まるでこう言っているかのようだった。

「この妹の反対には、もう反論できない。」すると、一人が言った。

「今すぐ皆で一緒に座って、彼の将来と善意について話し合った方が良くはないでしょうか？」

兄と善意の妹はすぐに同意した。妹はもはや兄の肩に守るように手を置く必要はなく、安心して彼の将来について話すことができた。そして、高位の妹は将来について語り、兄を導き、浄化へと導

き、真に求められる者へと導く準備ができていると告げた。彼女は兄の指導を引き継ぎたいと思っていた。しかし、三人の審判天使の一人が異議を唱えました。

「愛しい妹よ、あなたの任務は既に多岐にわたります。今の仕事に専念し続けるのが賢明でしょう。時々弟の様子を見に行くのも良いでしょう。」

しかし彼女は、執り成しの天使として弟のために立ち上がったと答えました。また、実の弟を最初の時期に導くことも自分の務めの一つだと考えています。そうでなければ、彼は霊界で自分の道を見出せず、昇天が妨げられてしまうからです。そして、弟のために十分な時間を持っていると付け加えました。三人の天使はそれ以上異議を唱えませんでした。しかし、別れる前に、高位の妹が弟を導く上での成功を祈り、こう言いました。

「弟がどの程度進歩したかは、後で伺います。」

こうして彼らは別れました。帰ってきた男は喜びに溢れ、あらゆる不安が一気に消え去りました。彼は妹にどう感謝してよいか分かりませんでした。しかし今、二人は依然として広大な野原の真ん中に立ち尽くしており、この荒涼とした状況の終わりは見えていませんでした。

「私はここでどこに住めばいいのですか？」と彼は尋ねました。「それとも、家族と一緒に地上の家に帰ることはできますか？家族は私たちの支えをととても必要としているのです。」

そして彼は続けました。「一緒に来てください。私の家族の家で一緒に暮らせます。」

「いいえ、それは無理です」と彼女は答えました。「私たちはあなたの家族を頻繁に訪ねますが、滞在はしません。今まで私は定期的に彼らを訪ねてきましたが、これからは一緒に行くことになります。でも、まずはあなたの家を探さなければなりません。」

ついに荒涼とした状況は終わり、間もなく二人は霊的な村に着きました。そこで彼らは多くの霊的な兄弟姉妹に出会いました。彼らは皆、とても親切で、誰かが自分たちの村に加わることを喜んでくれました。二人は家々を訪ね、妹は兄のためにまだ空いている場所がどこにあるか尋ねました。しかし、彼女は長く探す必要はありませんでした。すでに人々が彼女に会いに来て挨拶をしていたからです。彼女はこの村に馴染みがありました。この世界で既に多くの魂を訪ね、自ら紹介し、慰めと励ましを与えてきたからです。今、彼女は実の兄と共にやって来ました。もし親族の誰かが予期せずこの世を去ることになったら、この霊的な村を監督している自分が連れて来ると、ずっと前に他の者たちに宣言していました。彼女はこの小さな領域の指導者天使でした。天使として、彼女はこの小さな村の住人全員のことを気にかけていました。彼らは皆、昇天の過程にある魂でした。まだなすべきことは多く、皆が教えを受けていました。天上の姉は、この小さな村の指導者として必要な助っ人を用意する責任があり、今、かつての兄を教え、導くことを許されていました。そうすることが許されたことは、彼女にとって計り知れない喜びでした。彼女は天界における自分の立場と、自分が持つ権利をよく理解していました。なぜなら、彼女自身も天の天使たちに育てられ、教えられ、指導されてきたからです。ですから、彼女

が人に与えることができたのは、共に育った愛の天使たちから受けた愛と理解と同じだけだったのです。ですから、彼女は自分に与えられたもの、そして自分の魂の奥底に触れたものを返すことしかできませんでした。彼女は誰に対しても慈悲深い助言を与えましたが、同時に、誰もが自分の仕事をきちんとなし、向上のために努力するよう気を配りました。それでも、この村に住む人々は皆、このような愛に満ちた導きのもとに高みへと昇ることができたのは何と素晴らしいことかと、その言葉に共感しました。

さて、この天国の姉妹は、弟が妻と子供たちのいる地上の家に行くのに同行し、特にそのために弟を準備させたいと考えていました。なぜなら、弟は家族のそばに立つことが許されるべきだからです。彼女は彼に、どのように始めるべきかを説明し、こう言いました。

「一番良いのは、愛する人が眠っている時です。眠っている間、その人の魂は肉体から離れ、私たちは彼らと対話する機会を得ます。私たちは彼らに助言や導きを与えることができます。しかし、私たちは彼らの願いをすべて叶えることはできません。もちろん、日常生活の手助けはできますが、彼らの願いと私たちの願いはしばしば大きく異なります。人間の魂は地上の肉体と世界に縛られていますが、この地上の領域に全神経を集中させたいのです。霊的な関心は通常、二の次になります。魂の奥底で神、神の法、そして神の正義への揺るぎない信仰を持つ人々と接する時のみ、純粹に霊的な事柄について話し合うことがより可能になります。そうでなければ、彼らの思考は常に人間の世界に向けられ、彼らは全身全霊で人間界と繋がっています。もし誰かがこの信仰、この霊的な繋が

りを持っているなら、彼らを霊界で導き、その豊かさの全てへと導く可能性はより大きくなります。」

天国の妹は兄にこう教えた。こうして、初めて二人は妻の霊と繋がり、愛と喜びをもって互いに挨拶を交わすことができた。地上の死を超えてこの繋がりが存在すると信じたくない、あるいは信じられない人々によくあるような悲しみは、ここにはなかった。今や二人は霊と霊の間で未来について語り合うことができた。亡くなった男は霊の妻に、彼女と子供たちが神の意志に従うなら、いつでも支えたいと伝えることができた。こうして、二人の会話は主に未来に関するものだったが、すべては霊的な生活に焦点を当てていた。この霊的な慰めは、この女性の悲しみを乗り越える助けにもなっていた。そして、人生は続くという確信、愛する故人の助けを頼りにできること、そしてまた会えるという確信は、ただ一つだけだった。この確信が意識に浸透すると、遺族は悲しみを乗り越え、許される限り、亡くなった愛する人たちと霊的な関係を築くことができるほどの大きな力を得るのだった。こうして二人は多くの会話を交わしました。というのも、ハイシスターは兄を定期的に付き添って、遺族を訪ねたからです。兄は霊的な傷が癒され、命が継続し、子供たちが成長していく様子を目の当たりにすることができました。そして、時には自らも彼らの人生に介入し、支えることができることを喜びとしていました。しかし、これらすべてが兄だけの責任ではありませんでした。その時、天上のシスターはこう告げました。

「あなたは偉大な霊の家族の一員に加わらなければなりません。天の霊たちは救いの計画を推し進め、より完全に成就しようと努めているからです。」

こうして兄は、この偉大な聖なる霊の家族に加わることが、自身の昇天にとっていかに必要であるかを認識する必要がありました。これは、天の指導的天使たちの指示に従うことを意味しました。彼は、地上で待ち受ける、そして克服すべき試練に、他の善なる霊たちと共に取り組むことで、更なる務めを果たすことになりました。彼はまた、慈悲深い霊界だけでなく、不注意な者たちの世界、つまり死の領域（これについては後ほど説明します）もあることを学ばなければなりませんでした。そして、「死者の領域」という言葉の意味が、何度も彼に説明されました。それは神から離れた者たちの暗い世界です。彼はまた、この死者の領域との戦いに加わることになりました。慈悲深い霊界の陣営の空白を埋めることになりました。

こうして、彼は神の偉大な霊の家族における偉大な業に貢献することができました。また、人々に喜びをもたらすために演奏し歌う天使たちと共に何度も旅をすることを許されたため、喜びを味わうこともできました。マーティンはこれらの音楽的な存在の集団と共にあり、彼らと共に喜びを分かち合うことを許されました。そして、人々がなぜか分からず、演奏し歌う霊たちの存在によって幸せになる様子を目の当たりにすることも許されました。しかし、彼らの霊たちは、周囲で何が起きているのか、演奏されている音楽や歌声などを見聞きすることができました。人間の霊は、人間の霊を喜ばせるために降りてきた栄光に満ちた喜びに満ちた存在を見ることが出来ます。それゆえ、イエスは自ら進んで行う仕事と並行して、その光景を目撃することを許されました。

天の姉妹はついに両親と弟と再会し、共に喜び、昇天を祝うことになりました。

こうして、神の領域に早く帰還したこの姉妹は、愛する人たちを導く素晴らしい機会を数多く得ました。彼女は真に優れた執り成しの天使であり、厳しい天の天使たちでさえ一步退いて従う愛の霊でした。

これらの執り成しの天使たちは天の聖徒たちに属し、しばしば神とキリストの御前に宿り、その偉大な愛によって絶えず新たな靈感を受け、そして再び出て行って、神の御名と救い主イエス・キリストの御名において人々を助け、天国へと導くのです。

2. ケーススタディ

ほとんどの人は、特に若い頃は、突然、予期せずこの世を去ることへの備えができていません。これは、霊媒師から伝えられた以下の事例からも明らかです。ただし、この人は神との繋がりが強く、突然の死によって回復のために霊的療養所へと導かれました。

神の霊：次のケーススタディでは、生還した生存者がこう語っています。

私の名前はギュンターです。私の人生について簡単にお話ししたいと思います。妻と子供たち、そして両親と共に暮らしていました。両親の世話も必要だったからです。何よりも両親を愛していたので、喜んでそうしていました。私たちは美しく調和のとれた関係の中で暮らしていました。よく見知らぬ人を山に案内し、一度は一人でモンブランに登り、転落死したこともありました。

さて、神の国での私の人生についてお話ししましょう。転落後、最初に聞こえてきた言葉は、次の言葉でした。

「彼は死んだ。私たちが彼の面倒を見なければならない。」

私が最初に認識した言葉は、次のとおりでした。

「彼は死んだ！」

エピローグ

この電子書籍をここまで読み、ある程度理解した方は、すでに多くのことを達成されています。しかし、ここで私が提示した霊的領域で教えられていること、そして霊的領域で起きていること、そしてこれらの事例研究は、その表面をかすめたに過ぎません。

私たちが地球上で知っている善良で美しいものはすべて、太古の昔から霊的領域に存在してきたものの反映に過ぎません。

...だからこそ、一人ひとりが自問自答することが不可欠です。

「私はなぜ生きているのか？ なぜ地球は存在するのか？ 世界中の様々な場所に暮らす様々な人種はどこから来たのか？ そして、私たちが互いを訪ね合えるようになったのは、つい最近になってテクノロジーを通してより親密になったからなのか？」

しかし、こうした問いを問う人はほとんどいません。もし問うなら、地球とそこに存在するあらゆる生命体の存在の根源と真実にたどり着くでしょう。人は肉体と、肉体に属する精神だけでなく、魂と一体となった三位一体の存在であることを理解しなければなりません。

物質的な肉体と精神が存在する以前、魂は既に神の火花と共に霊的存在として存在していました。霊は物質的な目には見えず、本来はすべて天から来ています。

地上には数え切れないほどの霊が存在します。すべての人々、すべての動物、すべての植物、そして鉱物界には魂が宿っています。さらに、霊界における上昇段階、真の故郷へと戻る道を見つけられずに地上に留まっている死者の魂もいます。

何よりもまず、全能の霊である神、すべての生命と万物の創造主がいました。神は光に包まれた霊的な人格であり、キリストは神によって創造された最初の、そして唯一の霊的存在です。

イエス・キリストだけが神の子です。なぜなら、神によって、そして神から創造されたからです。後にキリストは神によって王として戴冠され、すべての霊的存在を賢明に統治しました。その後、キリストを通して、それぞれ女性と男性の存在である三組の大天使が創造され、デュアルと呼ばれました。これらの大天使のペアは、天国の展開の基盤でした。これらのペアには子供、孫、ひ孫などが生まれ、私たちは皆、霊的存在としてその子孫です。彼らを通して、天国における発展と広がり、それぞれが二元性を持つ存在として起こりました。

今日、多くの人が神を人格として認めようとしなないのに、なぜ神が真に人格を持つとは考えられないのでしょうか？神はどこにでも存在するとよく言われます。ある意味では、これは真実です。なぜなら、すべてのものは生命を持っているからです。つまり、すべての生き物は内に神の小さな火花を宿しており、それがなくなったら、例えば石や植物など、塵と化してしまうのです。

もっと書くことはできますが、これで霊界がどのようなものであり、どのように機能するのかについて、大まかな理解が得られま

した。ここで読んだ基本的な知識に加え、隣人のために多くの善行をしながら、尊厳と正義に満ちた人生を送るなら、あなたはすでに多くのことを成し遂げていることとなります。しかし、動物や植物を含むすべての生き物への愛もまた重要です。キリストはこう言われました。

「あなたがたが、わたしの兄弟姉妹のうち、最も小さい者の一人にすることは、すなわちわたしにすることである。」

さらに、出会うすべての人に愛情を注ぎ、辛抱強く耳を傾け、助け、ありのままの姿を受け入れる人は、人間としての完成に到達したのです。これら全てが難しいことは承知していますが、私たちは皆兄弟姉妹であり、真の霊的な故郷へと昇っていく過程にあります。そこで私たちは、地上での死後、喜びをもって迎え入れられます。そして、審判の天使が「あなたは私たちに何を持ってきたのですか？」と尋ねた時、

私たちは空手でいるわけではありません。彼は私たちが持ち込んだ多くの功績を見てくれるでしょう。そして、それが出発点となる資本、私が霊的な信用と呼ぶものなのです。そして、霊的な世界で私たちが益するのです！

最後に、短い個人的な話をします。私の母方の大叔父は第二次世界大戦で負傷し、右腕と右手の一部を失いました。その後、彼は組織癌を発症し、最終的には脊椎に開いた傷を負いました。死を迎えるために家に運ばれた時、彼はもはや話すことができませんでした。最期の瞬間、彼は大声で叫びました...妻よ。彼女は夫の声を聞いて自分の耳を信じられませんでした。夫はあまりにも衰弱し、

話すこともできませんでした。驚いてベッドサイドに行き、彼の最期の言葉を聞いたのです。それはこうでした。

「もう家に帰る。」

彼女は尋ねました。

「何だって？」エーリッヒおじさんは答えました。

「家に帰る！」

次の瞬間、彼は亡くなりました。つまり、霊界へと旅立ったのです！

終わり